

第28回駐日外交団の地方視察ツアー（東京都台東区）

平成 30年3月
地方連携推進室

平成30年2月21日、外務省と台東区との共催で、標記視察ツアーを実施し、駐日各国外交団18か国から15名の大使を含む計28名が浅草を視察しました。浅草は多くの訪日観光客が訪れる人気観光スポットですが、今回は、外国人にまだあまり知られていない江戸時代から続く花柳界（かりゅうかい）の文化をPRしました。

午後、浅草駅前のランドマーク「浅草文化観光センター」に集合した外交団は、主催者側による挨拶と、お座敷踊り実行委員会による浅草の概要説明を受けた後、5つのグループに分かれて浅草散策を行いました。浅草散策では、浅草で外国人観光客向けに英語のガイドツアーを毎週末開催している「東京 SGG クラブ」のガイドの方々のご協力を得て、各グループを案内しました。台東区はイスラム圏からの観光客誘致にも大きな力を入れており、5つのグループのうち1つはムスリム観光客向けに特化した内容として、希望されたイスラム国出身の大使たちに、台東区の取り組みや、仲見世通りの中で購入可能なハラール認証を受けたおみやげや店舗などを紹介していました。

散策の後、参加した外交団は料亭へ移動し、投扇興（とうせんきょう）や碁石拾いなどのお座敷遊びを体験しました。投扇興では、芸妓のアドバイスを受けながら、2人の参加者が向かい合って対戦。参加者は真剣な表情で、「蝶」と呼ばれる的に向かって扇子を投げ、点数を競いました。また、お座敷の盛り上げ役であり、「太鼓持ち」、「男芸者」とも呼ばれている幫間（ほうかん）による芸も披露されました。幫間は現在浅草にも6人しかいないそうです。

お座敷遊びの後は、谷崎潤一郎の随筆『陰翳礼讃（いんえいらいさん）』の世界観を再現したお座敷踊りを鑑賞しながら、日本酒と日本料理を楽しみました。電気照明を消し、蠟燭の灯りのみで照らし出された芸妓の舞は幻想的で、参加した外交団を魅了しました。



浅草寺周辺散策の様子



浅草寺宝蔵門にて集合写真



お座敷遊び（投扇興）体験

今回のツアーの共催団体である台東区からは、「敷居が高いイメージがある料亭や芸妓という浅草の文化を身近に感じていただく絶好の機会となった。都内である強みを活かし、各国の大使館の方々には今後も利用していただく機会を増やし、一般の観光客にも浸透していくことを目指したい。また、参加者の方からは充実した食事や英語対応について評価をいただいたが、主催自治体としてはまだまだ改善すべき点を認識した。」といった感想が寄せられました。

また、参加した外交団からは「本国からの客人を浅草に案内することがあるので、浅草の文化や歴史について知ることができて大変有益だった」「英語を話せる芸妓の方がいて、コミュニケーションを盛り上げていたことは非常に良かった」との声がありました。

【プログラム・訪問先】

- 浅草文化観光センター
- 雷門
- 仲見世通り
- 浅草寺
- 浅草神社
- 料亭「懐石 瓢庵」



お座敷遊び（とらとら）体験



幫間芸



蠟燭の灯りのみで江戸時代を再現する日本舞踊



料亭での集合写真